

淨泉寺報

第43号
2025年
報恩講



報恩講に寄せて

淨泉寺住職 望月廣三

私にとって「報恩講」とは何だ
ろう? 今年もそんなことを思
いました。そこでは言葉の意味を
考えました。「恩に報ずる集い」、
つまり「恩返しをする」法要とい
う意味になります。誰に恩返しを
するのか。いつまでもなく、宗祖
親鸞聖人の「教え」に対してです。
どんな教えに対しても、と自問す
ると、それは私にとっては「逆

説」の教えです。それは、迷うか
ら救われるのだ、とか、苦しいか
ら求めずにはいられないとか…、で
す。「これだけでは何を言っている
のか、理解できない人が多いでし
ょ。そこで端的に言いますと、
迷うことや苦しむことに、何ら悲
感することはない、むしろこんな
ときこそ自分を“変身”させる
チャンスであると捉えるべきだ
と聖人は教えていたのです。なぜ
なのか、それは何と言つても人は
悩むときは真摯に自分に向き合
うからです。幸せな日々を送つて
いるときは、人間は悩まない、だ
から幸せなのだと言えますが、
そうとも言えないのです。新しい
自分を生み出すためには悩みが
必要なのです。人間誰しも、悩ま
なければ、「こんな自分を何とか
したい」とは思わないでしょう。
「何とかしたい」という変身への

願望は、苦しみ悩みが基因になる
のです。そのことに「気づく」とが
大切なのです。

淨泉寺からのお知らせ

● 春のお彼岸 ●

お参りの日程は、三月上旬におハガキ
にてお送りします。お寺での彼岸会に
もぜひお参りください。

● 同朋会 (月例法座) ●

淨泉寺では、毎月お勤めと住職の法話
を中心とした同朋会を開催していま
す。どなたでもお気軽にご参加いただ
けます。

● 若坊守のひとりごと ●

生まれたものは必ず死ぬとい
う命の道理を受け取り切れず、
「どうして」と苦しむ私たちに、
親鸞聖人は「生死無常のことわり」とおっしゃり、ただ身の事実を正
面から見つめなさいと教えられ
ます。たまたまいだいだいこの命
が終えていくその時は、ほんの少
し「私の」という手の力を緩め、
お淨土へ参らせてもらえたらい
いのになあと思つています。

「私の」命と握りしめると、死
に對して驚き、怒り、絶望します。
（淨泉寺若坊守・釋尼彌名）

（淨泉寺若坊守・釋尼彌名）

お内仏(仏壇)に座る ④ ~「御文」に聞く(4)~

所詮、今月報恩講七昼夜のうちにおいて、各々に改悔の心をおこして、わが身のあやまれるところの心中を、心底にのこさずして、当寺の御影前において、回心懺悔して、諸人の耳にこれをきかしむるように、毎日毎夜にかたるべし。これすなわち「謗法闡提回心皆往」(法事讚)の御祝にもあいかない、また、「自信教人信」(往生礼讚)の義にも相応すべきものなり。しかば、まことにこころあらん人々は、この回心懺悔をききても、げにもとおもいて、おなじく日ごろの悪心をひるがえして、善心になりかえる人もあるべし。これぞまことに今月聖人の御忌の本懐にあいかなうべし。これすなわち報恩謝徳の懇意たるべきものなり。

(『御文』4帖目第5通)

今年も蓮如上人の書かれた報恩講に関する「御文」を紹介します。「[意訳]この七昼夜・8日間に渡って勤まる報恩講の間において、皆それぞれに日ごろの自分自身を振り返る心を起こして、親鸞聖人のお姿を映した御影の前において、我が身の愚かさを誤魔化さず、ここに集った人々と毎日毎夜語り合うのがよいでしょう。それは、善導大師の「法事讚」に説かれるところの「仏法を謗る者もすべて阿弥陀さんはたらきで回心し救われる」という教えに沿っていることであり、同じく善導大師の「往生礼讚」に説かれるように「まず、私一人が阿弥陀さんから賜った信心を得る見本となることが、周りの人に仏法の教えを伝えることになる」という意義にも合致するものなのです。ですから、真面目に教えに向き合おうとする人は、この自力の心を翻す告白を聞いて、「なるほど」と思って、同じように日ごろの間にまみれた心を翻して、他力の信心をいただく人もあるでしょう。これはまさに、親鸞聖人の祥月御命日にお勤めをし、集うことの意義といえるものでしょう。また、聖人への心からの報恩謝徳の志というべきものなのです」。

このように報恩講とは、仏教の教えを聞き、ありのままの自分自身の姿を見つめる、大切な機縁です。お齋と一緒にいたり、日頃の生活の中で聞こえてきたことを語り合ったりしながら、私自身を確かめる、真宗門徒にとって最も大切な仏事です。浄泉寺の報恩講は年末にあたります。どうぞ毎年身をお運びいただき、一年の終わりに我が身のありのままの姿を確かめ、新たな一年をお迎えいただければと思います。

(浄泉寺若院・釋亜世)

令和8年(2026年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に仏さまの教えを今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和7年(2025年)亡
三回忌	令和6年(2024年)亡
七回忌	令和2年(2020年)亡
十三回忌	平成26年(2014年)亡
十七回忌	平成22年(2010年)亡
二十五回忌	平成14年(2002年)亡
三十三回忌	平成6年(1994年)亡
五十回忌	昭和52年(1977年)亡

<発行元・問い合わせ>

真宗大谷派 楠林山 浄泉寺 電話 0799-22-4798



〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>